

## 明日への伝言

被災した女性への支援や女性と防災の視点について、エル・パーク仙台の成田洋美係長と佐藤莉乃さんにお話を伺いました。



▲地域版女性リーダー育成プログラムは、毎年20人程が受講。半年にわたり約10回して実践的なプログラムを通して地域での活躍を目指します

## 声にならないニーズをくみ取る

せんだい男女共同参画財団は、震災後の3月29日に電話相談「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」を開設します。「目の前の問題から徐々に家族や夫婦関係といった暮らしの相談が増え、家族のために我慢して、悩みを言い出せない女性の状況が見えてきました」と成田さんは話します。着替えも下着を干す場所も十分ではない避難所の様子が伝わり、女性支援団体と共に洗濯を代行する「せんとくネット」を開始。287人の女性ボランティアが集まり、活動は南三陸にも広がりました。

隠れた女性の声を拾い上げ、多様なサイズ・デザインの着着を避難所に届ける活動や、つらい気持ちを抑え込んでいた女子中高生への支援も実施。「大学生等のボランティアが中高生を集めて女子会を開き、アクセサリーなどをプレゼントしました。明るい気持ちになれる、未来に目が向く支援も必要」と佐藤さん。成田さんは「自分にもできることがある

と実感することは、支援する女性にとっても前に進む力になる」と振り返ります。

## 多様なリーダーシップの形

震災の翌年に本市で開催された日本女性会議。一旦は開催を諦めかけたと話す成田さんは「それでも被災地で見えた課題や、女性が声を上げ行動することの重要性を伝えなければと思った」と言います。テーマは「決める、うごく、東北から」。女性たちには社会を変える力も責任もあることを発信しました。その後、財団は地域の実情を知るため、被災した沿岸部の女性たちの集まりにも参加。「女性たちが自分の得意な分野で自然にリーダーシップを発揮している、先頭に立つだけがリーダーではないと感じました」と成田さん。さまざまな形でのリーダーシップが発揮されることで、復興やまちづくりが進むと実感したそう。そうした女性たちの思いや活動を伝えようと、広報誌やシンポジウムなどで発信してきました。

平成28年からは「地域版女性リー

ダー育成プログラム」を開始。地域で活動する女性たちが、コミュニケーションやマネジメントなどを学びます。「自分の強みを知り、スピートレーニングなどを経て、自分のリーダーシップを見つけたいきます。講座を聞くだけでなく、学んだことを自分の活動現場で実践し、受講者同士でその体験を共有することも。どんどん自信を付けていく姿に私も力をもらいます」と佐藤さん。修了生は100人を超え、学びを生かし地域に貢献する姿も見られるそう。今後、女性たちをさらに見える化し、横のつながりも強くしたいと2人は語ります。

佐藤さんは、震災後の採用。「平時にできないことは非常時にもできないと、何度も聞きました。率先して動く女性たちと出会い、日常から取り組むことの大切さを実感しています。そんな女性をもっと増やしたい」と話します。成田さんも「一つの積み重ねを大事に女性の多様な力を引き出し、活躍できるように後押ししていきたいですね」と続けました。自分たちに何ができるのか、あの日問いかけた原点を忘れずに未来へ歩む決意を話してくれました。



▲佐藤さん(左)と成田さん(右)

## 第8回 せんだい男女共同参画財団

せんだい男女共同参画財団は、「仙台市男女共同参画推進センター」のエル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台の2館を運営。女性の自立および社会参画の促進に向けた市民の自主的な活動を支援しています。「女性と防災」という視点から、地域で活躍できる女性の人材育成や活動の発信などに取り組んでいます。



▲エル・パーク仙台「女性と防災コーナー」